

永代橋・清洲橋国指定重要文化財内定記念特集

関東大震災と江東区の近代橋梁

こうとう区報(5/1号)やメディア等で大きく報道されていますように、4月20日に永代橋(永代1・佐賀1)、清洲橋(清澄1)、勝鬨橋(中央区)の3橋が国の重要文化財(建造物)に内定したことが発表されました。区内の国指定文化財としては八幡橋(旧弾正橋)、明治丸(いずれも建造物)、松平定信墓(史跡)に続いて4,5件目となります。

昭和30年代の永代橋
(深川図書館所蔵)



現在の永代橋



昭和30年代の清洲橋
(深川図書館所蔵)

現在の清洲橋



三を中心に原案を田中豊、設計を竹中喜義らが行い、橋桁は神戸川崎造船所が製作しました。なお、デザインはドイツのライン川に架

て底が焼け落ちてしまったため、内務省復興局が震災復興事業第1号として新たな橋を架けることとしました。それが現在の永代橋です。

橋のデザインを決めるにあたって復興局では、「帝都東京の門には荘重かつ雄大で男性的なデザインにするべきである」という意見が大勢を占め、その結果リブタイドアーチ橋(バランスト・タイド・アーチ橋)が採用されました。設計は復興局土木部長の太田圓三を中心とした。

下町文化

NO. 238
2007.7.10

発行
江東区教育委員会
生涯学習部生涯学習課
〒135-8383
江東区東陽4-11-28
TEL(03)3647-9819
<http://www.city.koto.lg.jp/>

永代橋・清洲橋
国指定重要文化財内定記念特集
関東大震災と江東区の近代橋梁

平成19年度芭蕉記念館企画展
江東地域のゆかりの人物

中川船番所資料館
平成19年度第1回企画展示
「しらべてみよう！
地域の歴史～大島編～」

18年度委託調査・区外史料調査報告
中川番所の史料をもとめて二
～猿江御蔵納御用中日記～

江東区文化財ガイド員活動報告
区内芭蕉史跡めぐり

新刊案内

永代橋 永代1・佐賀1(中央区新川1)
永代橋は元禄11年(1698)に隅田川に架かる4番目の橋として現在地より100mほど上流に架橋されました。明治7年(1874)に西洋式の木造橋に架け替え、同30年に現在とほぼ同じ場所に鋼鉄製のトラス橋を架橋しました。

かつていたレマーゲン鉄道橋をモデルとしています。

工事は大正13年(1924)12月に着工し、同15年12月20日に開通式を行いました。橋の長さは184.7m、幅は25.6mで、基礎

礎工事には日本でまだ充分広まっていなかったニューマチックケーソン工法を採用し、アメリカから技術者を招聘して施工しました。また、アーチの繋ぎ材に高張力鋼を採用し、日本海軍が研究中であった低マンガンの一種であるデューコール鋼を実用化しました。このように技術的にも斬新な工法を採用した永代橋は292万4千円という巨額の費用をつぎ込んで造られました。



竣工当時の永代橋(土木学会土木図書館所蔵)

清洲橋 清澄1~中央区日本橋中洲もともと「中洲の渡し」と呼ばれた渡し場に架橋された清洲橋は、永代橋とセットで復興局によって震災復興事業として計画された鋼鉄橋です。「清洲橋」の名は西詰が日本橋区中洲町、東詰が深川区清澄町であったので、それぞれの町名の1字をとって名付けました。計画にあたって復興局では「帝都東京の門」永代橋と対になるように、繊細

で女性的なデザインを意図し、当時世界で最も美しい橋と評価されていたドイツケルン市の大吊り橋をモデルとして自錠式吊り橋が採用されました。設計は永代橋と同じく太田圓三を中心に鈴木精一が行い、橋桁製作は神戸川崎造船所が行いました。

工事は大正14年(1925)3月に着工、昭和3年(1928)3月に竣工し、同月15日に開通式を行いました。長さは186.2m、幅25.9mで、永代橋と同様に、基礎工事にはニューマチックケーソン工法、橋を吊るためのアイバーケブルにデューコール鋼が採用されました。工事の総費用は321万3千円と永代橋よりも多くなりました。完成した清洲橋は隅田川に架かる橋の中で最も美しいと評価され、その優美な姿は「震災復興の華」と呼ばれました。



竣工当時の清洲橋(土木学会土木図書館所蔵)

関東大震災と江東区の橋梁建造事業

大正12年(1923)9月1日に発生した関東大震災は江東区に甚大な被害を与えました。深川区では焼失面積が80%を超え、全壊1,970戸、半壊1,841戸と全戸数の約15%が被害を受けました(『東京府大正震災誌』、

大正15年『震災予防調査会報告 第百号』)。死者・行方不明者は4,000人を超え、95%以上の区民が被災しました。城東区(亀戸・大島・砂町)では被災戸数は6,341戸と多かつたものの死傷者は71名で、深川区に比べると少ない被害に留まりました。深川区で多くの死傷者を出したのは、火災によって橋が焼け落ち、避難者が退路を断たれてしまったことが大きな要因だといわれています。

東京市や深川区では震災の教訓を活かして、復興事業として焼け落ちにくい鋼鉄製の橋梁を架ける方針を打ち出し、大正13年から昭和初期にかけて多くの橋を新設、または架け替えました。深川区・城東区では昭和元年から7年の間に154もの橋が架けられ、特に昭和4、5年で105橋と集中して架けられました(下段表)。橋は東京市、深川区、城東区、また新田橋のように個人が架けたものもありました。

今に残る昭和初期の橋梁

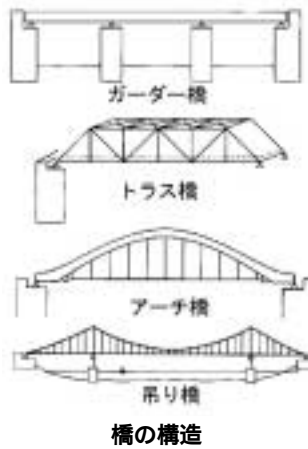
これらの橋の多くは運河や堀の埋め立てにより廃橋になったり、老朽化により架け替えられたり、大規模な改修が行われたりしましたが、小規模な改修を行いながらも今なお原型をとどめている橋があります(3頁下の図)。

橋の構造はガーダー橋、トラス橋、

関東大震災後に架橋・架替れた鉄橋

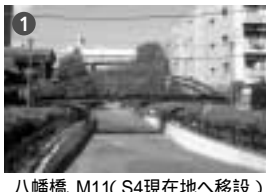
昭和1	菊川橋、永代橋、汐見橋、豊住橋、扇森橋	5
昭和2	本村橋、琴平橋、平久橋、大島橋、茂森橋、洲崎橋、四之橋、相生橋、五の橋、横川橋、清水橋、東雲橋、黒船橋、末広橋、豊森橋、北之橋、弾正橋、境川橋、美芳橋、栖原橋、住吉橋、山水橋	22
昭和3	亥の堀橋、御船橋、清洲橋、下の橋、関口橋、豊平橋、進開橋、鶴歩橋、松栄橋、扇橋、鶴寿橋	11
昭和4	青山橋、石島橋、武市橋、相生橋、伊東橋、富岡橋、福島橋、古石場橋、松の橋、三島橋、緑橋、大横橋、平住橋、牡丹橋、海砂橋、友田橋、御堀橋、天神橋、繁栄橋、福富橋、富島橋、松永橋、元木橋、和倉橋、猿江橋、千鳥橋、北新橋、崎川橋、福寿橋、雑治橋、小名木川橋、大島橋、千石橋、泰喜橋、蛤橋、孝慈橋、巽橋、大栄橋、大和橋、松本橋、亀久橋、新島橋、千田橋、蓬萊橋、富士見橋、吉岡橋、木場橋、要橋、森住橋、浜園橋、入船橋、永居橋、新開橋、千砂橋、豊木橋、新扇橋、三石橋、巴橋	58
昭和5	小松橋、新高橋、勝衛門橋、幾世橋、岩井橋、範多橋、柳島橋、東富橋、豊砂橋、平木橋、黒船橋、沢海橋、昭和橋、海辺橋、石住橋、栗原橋、松代橋、伊予橋、亀居橋、舟木橋、下木橋、木更津橋、加藤橋、栄木橋、蘆洲橋、一木橋、海軍堀橋、丸太橋、島田橋、築島橋、鶴島橋、越中島橋、上之橋、大久保橋、板小橋、青海橋、六の橋、万年橋、大富橋、井上橋、西深川橋、豊島橋、丸本橋、横相橋、平井橋、福永橋、永本橋	47
昭和6	石浜橋、高橋、東深川橋、神明橋、中川大橋、境橋、錦糸橋	7
昭和7	弁天橋、新田橋、鷗橋、白妙橋	4

*『江東区二十年史』(1967)、『江東区年表』(1999)より作成。*大正15年12月25日に昭和元年に改元。*これらの橋には東京市が架橋したもの、深川区が架橋したもの、城東区が架橋したもの、個人が架橋したものがあ。*太ゴシックで示した橋は小規模の改修を経ながらも現在、原型をとどめているもので、それ以外は廃橋、架替、大規模改修を受けたものである。



橋の構造

アーチ橋、吊り橋があります(図参照)。
 ガーダー橋は橋脚の上に材を渡した最も簡単な構造です(弁天橋など)。トラス橋は三角形を連ねた形式で最も安定感があり、区内で最も多く見られます(大栄橋など)。アーチ橋は文字通り弓なりの形状で景観に優れますが複雑な構造計算が求められます(万年橋、白妙橋)。吊り橋は橋の上に塔を建てて空中のケーブルをもって橋を吊り上げる形式です(清洲橋)。
 これらの橋は江東区の景観をかたち作る上で重要な要素となっています。橋はいま現在も利用されており、老朽化が進めば、安全性を考慮して古くなった橋は架け替えられる運命にあります。しかし、区にとって非常に貴重な近代遺産であることは間違いありません。安全性を考慮しつつ、後代に伝えていきたいものです。
 (文化財専門員 赤澤春彦)



1 八幡橋、M11(S4現在地へ移設)
富岡1~2、トラス、
国指定重要文化財



2 平久橋、S2.5、
木場1~牡丹3、トラス



3 御船橋、S3.3、
佐賀1~福住1、ガーダー



4 鶴歩橋、S3.7、
冬木~木場3、トラス



5 木場橋、S4.2、
木場3、トラス



18 東富橋、S5.2、
富岡2~牡丹3、トラス



19 築島橋、S5.6、
木場2、ガーダー



20 万年橋、S5.11、
常盤1~清澄1、アーチ



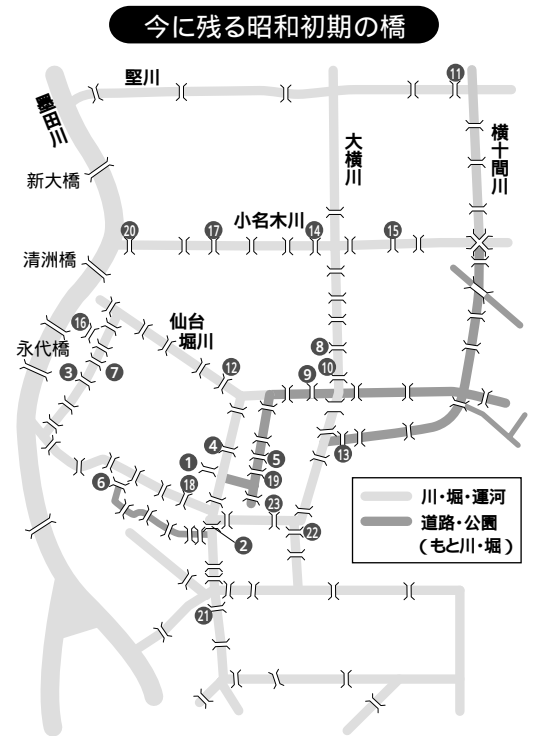
21 白妙橋、S7.1、
塩浜1~2、アーチ



6 古石場橋、S4.3、
牡丹1~2、ガーダー



17 西深川橋、S5.2、
森下3~白河1、トラス



今に残る昭和初期の橋



22 弁天橋、S7、
木場6~東陽3、ガーダー



7 緑橋、S4.4、
佐賀1~福住1、トラス



16 豊島橋、S5.1、
佐賀2、ガーダー



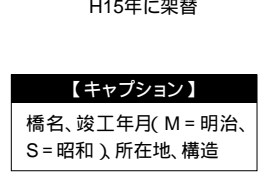
23 新田橋、S7.6、
木場5~6、トラス
H15年に架替



8 福寿橋、S4.9、
平野4~千石1、トラス



15 小松橋、S5.1、
猿江1~扇橋1、トラス



9 崎川橋、S4.9、
平野4~木場4、トラス

【キャプション】
 橋名、竣工年月(M=明治、
 S=昭和)所在地、構造



14 新高橋、S5.1、
森下5~白河4、トラス



13 富士見橋、S4.12、
東陽5~6、ガーダー



12 亀久橋、S4.12、
平野2~冬木、トラス



11 松本橋、S4.11、
毛利2~墨田区江東橋4、トラス



10 大栄橋、S4.11、
平野4~千石1、トラス

江東地域のゆかりの人物

平成19年12月16日(日)まで

芭蕉記念館では、現在「江東地域のゆかりの人物」をテーマに、江戸時代〜近現代に活躍した人物54人を取り上げ、その遺墨68点を展示した企画展を開催しています。

各地には、歴史に名を刻んできた、ゆかりの人々が数多くいます。その中には、ここで生まれ、ここで育ち、またそこで亡くなったりと…。あるいは、そこに移り住んだり、そこを作品の題材に選んだりと、さまざまな経緯があります。なお、今回の展示で取り上げる「江東地域」とは、隅田川の東部に位置する現在の江東区と墨田区に跨る地域を便宜的に指しています。

東京を象徴する隅田川には、かつて在原業平が「名にしおはばいざこととはん都鳥我おもふ人はありやしや」と詠み、ここに立つて都を偲びました。また、江戸時代には、江戸一番の行楽地として、市中から四季折々「春は墨堤の桜、夏は両国の花火、秋は川面に舟を浮かべての月見、冬は雪景色」と、大いなる賑わいを見せていました。人々はここに集い、またこの地域は独特の下町の風情と人情によって、育ま

れて来たのです。

展示では、深川を拠点に俳諧活動を開いた松尾芭蕉(古池の跡)のほか、芭蕉と関係の深い人物を中心に、画人の英一蝶(宅跡)、芭蕉に草庵を提供したとされる杉山杉風、芭蕉の参禅の師仏頂(臨川寺)、そして芭蕉門の度会園女(墓所)などの作品とともに、この地域との関わりやエピソードも紹介しています。

また、江戸時代の中後期の書家三井親和(墓所)をはじめ、後期の戯作者山東京伝(誕生の地)・滝沢馬琴(誕生の地)と浮世絵師葛飾北斎(江東地域の画題の作品を残す)の短冊、歌舞伎役者の七代目市川團十郎(宅跡)が



京伝・馬琴の短冊

書した掛軸、浮世絵師の歌川豊国(墓所)が七十七歳の喜寿の祝いの年賀に配った錦絵など、多彩な顔ぶれの作品もご覧いただけます。

さらに近現代に入ると、この江東地域をモチーフにした『深川の唄』などの作品で知られる永井荷風、『人生劇場(残侠編)で砂町(砂村)を背景に取り入れた尾崎士郎、谷崎潤一郎の『刺青』で佐賀一丁目辺りに住んでいることになっっている主人公清吉、『晴小袖』『風流深川唄』などの作品で知られる川口松太郎など、作家の句や歌の短冊も展示します。

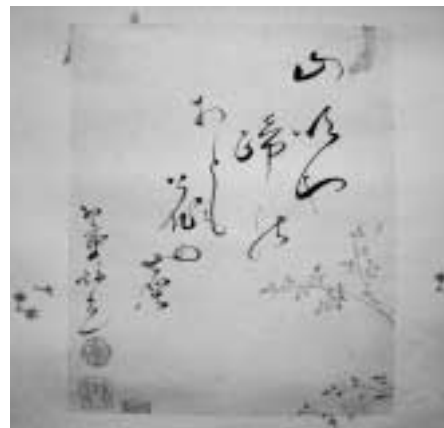
今回の展示は、この江東地域にゆかりの54人を取り上げ、それぞれ紐解くことで、この地域の魅力を改めて感じ取っていただける内容です。この機会に、是非ご覧ください。

(横浜文学)

今回の展示は、芭蕉記念館・深川江戸資料館・中川船番所資料館の歴史文化施設で、江東の「ひと・物・地域」をテーマに初の合同企画展として開催するものです。

今後、中川船番所資料館では10月31日〜11月25日まで「物」をテーマに特別企画展「江東区のとからもの」展、深川江戸資料では「地域」をテーマに

11月10日〜25日まで特別展「江東地域の堀・川」展を開催いたしますので、ご期待ください。



深川秋色の色紙

芭蕉記念館

開館時間

午前9時30分〜午後5時

(4時30分までにお入りください)

展示室休室

毎週月曜日(祝日の場合は翌日)

入館料

大人100円・小中学生50円

交通

都営地下鉄新宿線・大江戸線

森下駅下車 徒歩7分

問合せ

江東区芭蕉記念館

江東区常盤1 6 3

☎03(3631)1448

「じぶらべてみよう！」

地域の歴史 ～大島編～

中川船番所資料館では7月21日(土)から8月31日(金)まで、平成19年度第1回企画展示「しらべてみよう！地域の歴史～大島編～」を1階エントランスロビーで開催します。

江戸時代から現在までの間に、私たちが住む江東地域は大きな変貌を遂げてきました。また今年は、昭和22年(1947)に江東区が誕生してから60周年の節目の年にあたります。そこで、今年度の第1回企画展示では、今まで知っているようでも知らなかった江東区内の各地域、特に資料館がある大島の歴史を取り上げます。

1 江戸時代の大島

江戸時代の大島地域は14の村や町に分かれ、田や畑が大部分を占めていました。これらの村々がいつ成立したか、詳しい年代はわかりませんが、「武蔵国風土記稿」には、元禄年間(1688～1703)の絵図に初めて見られると記されているので、これより以前であることは間違いないようです。

大島にあった寺社の多くで最も多くの参詣者を集めていたのが、現在の大島3丁目付近に



江戸名所図会 五百羅漢寺

あった羅漢寺(らかん)(現在ある羅漢寺とは別の寺院)です。境内には五百羅漢像が安置された羅漢堂や、堂内をサザエの貝のように廻るために名付けられた「さざえ堂」などがあり、周辺には茶屋が設けられていました。

2 大島町から城東区へ

明治22年(1889)、前年に制定された「市制」に基づき、現在の大島地域にあった村々が合併して大島村が誕生し



羅漢通り五之橋方面の眺望 (大東京市併合記念大島町誌)

ました。明治33年には大島町と改称し、東京近郊の工業地帯として発展するとともに、人口も大幅に増加しました。昭和7年(1932)には、亀戸町・砂町と合併して城東区となり、昭和22年に深川区と合併して江東区が誕生するまで、現在の大島1丁目に区役所が置かれました。

3 大島の神さま、仏さま

現在の大島地域にある寺社の多くは、江戸時代の村が形成される中でその鎮守として祀られたもので、人々の信仰の対象としてだけでなく、地域社会の中心にもなっていました。また、宝塔寺のように、小名木川を往来する商人たちの信仰を集めた寺院もありました。



宝塔寺 塩なめ地藏

これらの寺社の中には、戦災で社殿を焼失し、現在はなくなってしまった所もあります。大島7丁目にある東大島神社は、戦災で消失した5つの神社を統合して建てられた神社で、境内には旧5社の鳥居や石像物などが置かれています。

4 大島のつりかわり

昭和30年代の『江東区史』編纂の際に撮影された写真と、現代のようすを見比べながら、



新大橋通り大島1丁目交差点

大島地域の移り変わりを見ていきます。また、7月29日(日)と8月26日(日)の午後1時から、職員によるミュージアムトークを開催します。夏休み期間中に開催していますので、史跡めぐりや、学校の調べ学習の際にもぜひご利用ください。(中川船番所資料館 鈴木将典)

中川船番所資料館

開館時間
午前9時30分～午後5時
(4時30分までにお入りください)
休館日
毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
入館料
大人200円・小中学生50円
交通
都営地下鉄新宿線 東大島駅(大島口)下車 徒歩5分
問合せ
江東区中川船番所資料館
江東区大島9-1-15
☎03(3636)9091

中川番所の史料をもとめて

（猿江御蔵納御用中日記）

江東区古文書調査団（団長・吉原健一
郎・成城大学教授）は、平成16年度の茨
城県立歴史館（調査報告は『下町文化』
229を参照）に続いて、平成17・18年
度と群馬県立文書館（前橋市）で、群馬県
域に残されている江東区関連の古文書
所在調査を行いました。群馬県立文書館
は昭和57年（1982）に開館した施設
で、群馬県に残された歴史的価値のある
古文書・記録や県の公文書（行政文書、
行政資料等）などを収集、整理、保存する
ことを目的としています。

群馬県は、関東平野の西端に位置し、
新潟県や長野県、福島県との県境には関
所が点在していました。これらの関所に
関する史料は、中川番所との比較検討を
行う上で貴重な資料と考えられます。ま
た、木材や硫黄、銅、生糸などといった資
源があることから、それらの生産・流通
に関する資料が江東区に関連する資料
として比較的多く残されていました。

今回は二回目の中川番所関連史料の
紹介として、猿江御蔵木蔵（現猿江恩賜
公園）に御用材を納める際に残された日
記を紹介します。

この日記は勢多郡水沼村（現桐生市）
の星野七郎右衛門によって書き留めら
れたもので、天保6年（1835）閏7月
13日から8月4日の間の出来事が確認
できます【表参照】。初日である閏7月13
日には江戸神田を出立し、和泉橋より船
にて下大島村旅宿に到着しています。す
でに御蔵木蔵への御用材納入の差配を
行うため、江戸に出席しているところか
ら日記は書き始めているのです。そして、
和泉橋から船に乗り、神田川、小名木川
を経由して下大島村（現江東区大島）の
旅宿に到着しました。

到着すると下大島村の名主八左衛門
や上大島村の年寄三右衛門といった人
物のご機嫌伺いに来ています。御用材の
納入に関しては、猿江御蔵木蔵周辺の村
むらにとっても大きな出来事であつた
と思われまふ。また山本町代地の万屋佐
兵衛なる人物は蒲焼きを持参するなど、
近隣の人々がしばしば来訪しています。

閏7月15日には木場の遠州屋太左衛
門と太田屋徳九郎が「敷材」の売りさば
きについて相談に訪れます。この「敷材」
とは御用材を筏として組む際に一番下

に敷かれた材木と考えられ、この材木に
ついて、木場の材木問屋である太田屋と
木場仲買の遠州屋が関わったものと思
われ、太田屋は重話（お弁当）を2つ、遠
州屋はひしお（醬）1樽を持参していま
す。

七郎右衛門は下大島村でこれから送
られて来るであろう御用材を待つこと
になるのですが、閏7月17日に不安にさ
せる書状が到来します。御用材の差配を
受け持つ御普請役御場所御出役の安藤
弥四郎からの御用状で、武州黨村（現埼
玉県上里町）一帯が閏7月6日、7日の
両日大雨によって七尺（約210cm）も出水
したとの報告でした。黨村にある藤木河

岸は今回の御用材を筏に組んで積み出
しており、組んだ筏が流失していないか
不安になるところですが、書状にはおそ
らく大丈夫であるつと記されています。

閏7月19日の記述には昨18日に起こ
った小事件を取り上げています。11日に
藤木河岸から積み出された筏6艘は18
日には江戸川を下って新川辺に到着し
ました。続いて新川に筏を通すため、「二
の入」（二の江が、現江戸川区江戸川）の
人足を頼むため、二之江村の組頭吉兵衛
に掛け合います。しかし、吉兵衛は御用
材の極印が違つ、として人足を引き上げ
るとともに筏を差し置くこともまかり
ならぬと言つたのです。御用材を運搬す

【表】天保6年（1835）の猿江御蔵納御用中日記

月日	できごと
閏7月13日	神田を出立し、下大島村旅宿着
閏7月14日	御用材置場におく御用幟6本を木蔵人足頭へ渡す
閏7月15日	
閏7月16日	
閏7月17日	武州黨村より7月6、7日に洪水が起きたとの書状が来る
閏7月18日	
閏7月19日	筏6艘が東台島（当代島）を通過、西船堀村の乗子にて中川番所を通関
閏7月20日	横川到着の筏のうち、杉木1本不足発見。会所を釜屋七右衛門宅に定める
閏7月21日	
閏7月22日	
閏7月23日	
閏7月24日	筏4艘が横川着
閏7月25日	筏3艘が横川着。槻木、杉木1本づつが紛失、届け出を出す
閏7月26日	紛失木について御勘定組頭へ内々に報告
閏7月27日	
閏7月28日	筏7艘が横川着
閏7月28日	
8月1日	横川通到着の御用材につき御勘定の見分をうける
8月2日	
8月3日	
8月4日	洗い終わった御用材を水門の中に入れる前に本数を確認する

「猿江御蔵納御用中日記」（黒保根村水沼 星野愷家文書T4）より作成した。



【写真1】安政期「泰平江戸図」(部分)(江東区中川船番所資料館蔵)
中央に「御ざいもくぐら」の文字が見える。

21日には筏が順調に到着していることをつけ、幕府の担当となっている御勘定方の遠山弥左衛門が御材木蔵にやってきました。弥左衛門は御用材の確認に来る前に八右衛門新田(現江東区北砂)にある「御手絞り油」所にも立ち寄っています。この「御手絞り油」所についてはよくわかっていないもの

の、江東地域にある幕府関連施設と思われる。24日には藤木河岸から出発した14、17番の4艘の筏が横川に到着します。したがって既に17艘の筏が到着していることとなります。以降、日記からは22艘の筏が到着したことが確認できますが、到着にあたっては小事件が起きました。26日の日記には槻1本と杉1本が横川に繋いである筏から盗まれたと記されています。これをつけて御勘定方遠山弥左衛門などに内々に相談しました。筏に組まれてやってくる御用材は大量にわたるため、盗まれたのか、流されたのかはわからないとして表向きには届け出をしないとしています。幕府の方でどのような処理をしたかはわかりませんが、御用材であったためか御用材運搬を担当する人たちが収めようとしたことがわかり、興味深いものとなっています。

一方、筏に乗ってきた上州の筏乗りたちは帰りは陸路で故郷へ帰っていくのですが、その帰りの路銀が足りないとのことで七郎右衛門が受け取った賃金の中から貸し渡しています。筏乗りたちは、江戸への筏運搬に際しては最低限の路銀しか持たされていないのかどうかは不明ですが、御用材運搬の「マ」をみることで、このような手間をかけて運ばれた御

(文化財専門員 龍澤潤)

るために上州からついできた筏乗りが難儀したため、急遽御用材運搬を任せられた幕府御普請役の川島小七郎と七郎右衛門は現地へ急行します。せつかく運ばれてきた御用材の運搬に支障が出てはいけなかったため、周辺の村むら歩き回った結果、西船堀村(現江戸川区船堀)に筏の人足宿があるとのことで、そちらの人足を頼むこととなりました。

19日になって下今井村(現江戸川区下今井町)の七兵衛、西船堀村の筏宿弥兵衛が筏運搬のために新川口に到着し、東台島(当代島)から新川に入って中川番所に到着します。中川番所を通行するに

あたっては、西船堀村の「乗子」(筏師)を雇い、1艘あたり48文の茶代を支払っています。また、中川番所では御用材につけられた極印を確認しますが、その方法では手間がかかるとしています。今回の御用材運搬をつとめるために日記とともに書き記したと思われる留書には、「売木」の体裁に筏を組んだ方が「弁理」(便利)で良いと記されています。



【写真2】歌川広重「中川」(江東区中川船番所資料館蔵)広重『画本江戸土産』に描かれた中川番所周辺の様子。筏が数隻通行している。

翌20日には筏が到着したため、筏につけられていた御用幟を引き上げ、到着したことを記した書状とともに藤木河岸へと送っています。また、この日からは下大島村の旅宿から釜屋七右衛門宅へと宿を移動します。釜屋七右衛門は鋳物業を営む商人ですが、この時に「御用材会所」として定められたようです。ただし、なぜ会所に指定されたのかどうかは不明です。

21日には筏が順調に到着していることをつけ、幕府の担当となっている御勘定方の遠山弥左衛門が御材木蔵にやってきました。弥左衛門は御用材の確認に来る前に八右衛門新田(現江東区北砂)にある「御手絞り油」所にも立ち寄っています。この「御手絞り油」所についてはよくわかっていないもの

用材は横川につなぎ止めている間に「洗立」を行います。これは運搬の過程でついた汚れなどを落とす作業であったと考えられます。そして、水門の内、つまり猿江御材木蔵へと納入したのです。

この「猿江御蔵納御用中日記」は具体的な筏運搬に関する記述のみならず、中川番所通行の実態や猿江御材木蔵周辺の様相などをうかがうことのできる貴重な資料となっています。このように江戸時代の江東区の様相をうかがえる史料はまだまだ他地域に眠っているようです。

江東区文化財ガイド員活動報告 区内芭蕉史跡めぐり

「江東区文化財ガイド員」で、聞いたことありますか。街に伝えられた文化財を通して地域の歴史を案内する方々です。

今回、ガイド員が案内したのは、芭蕉記念館主催の「区内芭蕉史跡めぐり」です。平成19年度「奥の細道」旅立ちの日イベントと銘打って、去る5月16日（火）に実施されました。この史跡めぐり開催にあたって、ガイド要請があり、ガイド員6名が参加しました。

史跡めぐり当日、一般参加者56名は3グループに分かれ、ガイド員も各班にそれぞれ2名ずつ付きましました。快晴のなか歩いたコースは、芭蕉記念館（隅田川テラス） 史跡展望庭園 芭蕉稲荷神社（万年橋） 臨川寺 採茶庵跡（海辺橋） 紀伊国屋文左衛門臺 深川江戸資料館です。芭蕉記念館から深川江戸資料館を結ぶコースは、芭蕉と芭蕉の住んだ深川の下町を巡るものです。

史跡めぐりのはじまりは、午後1時30分。まず、記念館の展示を見学したのち、外に。ここからガイド員の出番です。芭蕉記念館を裏木戸から出ると、コンクリートの塀があり、それに沿って歩道が続きます。ガイド員の解

説を聞きながら、階段を上り、塀を越えると、向こうには隅田川、そして川沿いの景観が広がります。川沿いに隅田川テラスを歩くと、芭蕉も受けたであろう、隅田川の爽やかな風が身を包みます。数分あるくと史跡展望庭園に到着。疲れた体を芭蕉坐像が迎えます。それぞれ3〜5分程度にまとめられた解説内容は、要点を押さえた、解かりやすいもので、史跡めぐりの疲れを感じさせません。さすが「ガイド員！」という思いがしました。

また、各解説ポイントや隅田川テラスだけでなく、コースの間には、相撲部屋が集まる通り、仙台堀川沿いを海辺橋際の採茶庵まで歩く小道（芭蕉俳句の散歩道）、さらには江戸情緒の残る江戸資料館通りなど、コース自体に対する興味も尽きませんでした。

芭蕉の住んだ深川を歩き、ガイド員の解説を聞く。歩くだけでも楽しいですが、江東区ガイド員の幅広い知識に裏付けられた解説が、参加者の午後をさらに心地よい時間に変えたことでしょう。



芭蕉記念館史跡展望庭園で解説をするガイド員

新刊案内

文化財係より新たに2冊が刊行されました。両書とも専門的な内容となっておりますが、区民の皆さんに活用していただければ幸いです。

『江東区文化財研究紀要』15号

B5版 79頁 700円

【構成】

論文 小特集 流通と江東区

出口宏幸

「貝殻（蛎殻）流通と地域社会」

赤澤春彦

「材木原産地と深川木場材木問屋」

龍澤 潤

「小松原春直日記から見えるもの」

史料紹介

久染健夫

「深川江戸資料館所蔵 江東地域の

地図類について」

書評

石居人也

「小泉雅弘著『下町学芸員奮闘記』」



『中川番所資料集』1

A5版 80頁 800円

中川番所に関連した資料を翻刻するシリーズで、今回は神宮文庫所蔵の「中川御制札記」を取り上げました。加藤貴氏による解説、中川番所にちなんだコラムも入っています。



頒布場所・お問合せ先

区役所6階11番窓口 文化財係

(3647 9819)